

三重県河芸町に於けるコホート調査 (小児期からの成人病予防に関する研究)

増田英成、神谷 啓
国立三重病院小児科

要約：三重県河芸地区コホートの第3回目健康診断を行った。小学1年、4年、中学1年の3時点での調査参加者は128名、この内採血が可能であった者は117名であった。肥満の出現頻度は3時点で6.0%、17.5%、12.8%と頻度は高い傾向があった。高コレステロール血症出現頻度は低下し、各時点で35.9%、23.7%、16.2%となった。

【研究目的】

小児期発症の生活習慣病の病因を明らかにし、効果的な介入方法の確立に資する為、平成4年度三重県安芸郡河芸町において小学1年生154名のコホートを作成した。今年度は第3回目(中学1年生)の健康診断について結果を報告する。

【研究方法】

1998年度河芸コホート対象者154名中健康診断を実施し得た117名(中学1年生)を対象に、1992、95年と同様の内容(身長、体重、肥満度、皮脂厚、血圧、血液検査(血清脂質、尿酸等)及び当研究班統一フォーマットの生活習慣アンケート調査を施行した。当コホートは河芸地区4小学校卒業生が1中学校に進級入学する。調査開始時154名、小学4年生時137名が追跡可能であったが、今回は他地区への転居、或いは校区外への進学などにより128名の追跡が可能であった。この内、117名が健康診断に参加した。従って身体計測値については128名、また採血感作データについては117名について検討した。

【結果】

1) 身体計測値(身長、体重、肥満度、BMI)について男女の順で平均値±標準偏差を記す。

身長 155.9 ± 7.5 m、女児身長 153.7 ± 5.5 cm、体重 $46.4 \pm 9.4 \pm 45.1 \pm 7.7$ kg、肥満度 $3.6 \pm 14.6\%$ 、 $1.8 \pm 14.1\%$ 、BMI 18.9 ± 2.8 、 19.0 ± 2.7 であった。当コホートの小学1、4年、中学1年でのそれぞれの時点に於ける肥満出現率は6.0、17.5、12.8%であった。

2) 血圧(自動血圧計)の各時点に於ける収縮期及び拡張期圧平均値は男児 108.8 ± 11.7 mmHg、 59.1 ± 10.2 mmHg、女児 110.9 ± 12.9 mmHg、 65.0 ± 10.2 mmHgであった。

3) 皮下脂肪厚は平均 9.1 mm、 15.2 mm、 14.2 mmで中学1年生ではやや低下傾向となっている。

4) 血清脂質の男女別平均値±標準偏差はTC(mg/dl) 168.5 ± 30.0 、 181.3 ± 23.1 、TG(mg/dl) 77.6 ± 44.3 、 84.8 ± 30.1 、HDL-C(mg/dl) 72.2 ± 17.8 、 75.2 ± 16.5 、AI 43 ± 0.53 、 1.51 ± 0.58 と女児が高い傾向を示した。当コホートでは小学1年生時、35%と高率に高コレステロール血症を認めたが、4年生時23.7%、今回16.2%と低下傾向を示した。

【考察】

当地区に於ける肥満出現頻度は、三重県鈴鹿市の小中学生肥満出現頻度と比較するとやや高い傾向があった。鈴鹿市では年間18500~19500名前後で同市の対象児童生徒の95~97%をカバーする肥満出現頻度を継続して報告している。

また、当コホートでは高脂血症出現頻度は極めて高値であったが、段階的に低下してきており、今回は16.2%であった。トラッキングについては次年度アンケート調査結果と併せて検討し報告予定である。

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:三重県河芸地区コホートの第3回目健康診断を行った。小学1年、4年、中学1年の3時点での調査参加者は128名、この内採血が可能であった者は117名であった。肥満の出現頻度は3時点で6.0%、17.5%、12.8%と頻度は高い傾向があった。高コレステロール血症出現頻度は低下し、各時点で35.9%、23.7%、16.2%となった。